

(国語科)

自ら学び、進んで表現できる子どもを育てる
～国語科「書くこと」の指導を通して～

大阪市立北巽小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

未来に向けてたくましく生きていく子どもを育てるためには、学校教育の中で「生きる力」すなわち「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の知・徳・体をバランスよく育成することが課題である。本校では、教育目標を「主体的に学び、心身ともに強く、明るく心の豊かな子どもを育成する」と掲げ、「生きる力」を育む教育活動を推進してきた。その一環として、目指す子ども像の一つを「自ら進んで物事に取り組み、人の意見を真剣に聴き、主体的に判断して、自分や友だちの考えや思いを生かして表現し行動できる子ども」としている。国語科を中心に、子どもの「確かな学力」の育成を目指し、研究主題を「自ら学び、進んで表現できる子どもを育てる～国語科「書くこと」の指導を通して～」と設定することにした。

2. 研究の内容

(1) 研究の進め方

研究主題をもとに、学年研究部会で年間指導計画をたて、授業研究を通して、指導力の向上に努める。

授業研究は、各学年1回行い、計6回実施する。どの授業研究でも、研究推進委員会を中心に、指導案の検討や授業後に外部講師を招いてのワークショップ形式の研究討議会を行い、研究を深められるようにする。

研究討議会後には、明らかになった成果と課題や指導助言等を研究通信にまとめ、共通理解を図り、次回の授業に生かすことができるようにする。

外部講師を招聘しての研修会や自主研修会を行い、授業力の向上に努める。

(2) 研究の視点

国語科における、めざす子ども像を具体化するため、以下の3つの視点を決め研究に取り組むことにした。

① 自ら学び、進んで表現できる子どもを育てるための授業づくりの工夫

- (1) 教材分析 (2) 単元の構成 (3) 交流の場の設定
- (4) 指導形態の工夫 (5) ノート指導の充実やワークシートの活用

② 基礎・基本を身につけるための手立ての工夫

朝の学習の時間等に、「話す・聞く」、「読む」、「書く」の言語力の下支えとなる基礎・基本の学力をつけていく取り組みを行う。

③ 読書活動の充実

- (1) 環境の整備 (2) 図書委員会やボランティアによる読書支援活動
- (3) 朝の読書タイム (4) 読書の記録 (5) 図書室だよりの発行
- (6) 区の図書館との連携

3. 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

① 自ら学び、進んで表現できる子どもを育てるための授業づくりの工夫について

- 単元の導入で、学習の最後に、学んだことを活かした言語活動（図鑑・リーフレット・説明文など）を設定したり、相手意識をもたせたりすることで、学習意欲を喚起することができた。
- 栄養教諭と連携することで、学習に関連する事を学び、興味関心を高めることができた。
- 学習計画や学習したことを掲示することで、子どもは、学習に見通しをもったり、既習事項を振り返ったりしながら課題に取り組むことができた。
- 各学年の実態に応じて、ノートやワークシートを活用し、自分の考えや調べたことを書くように指導することで、どの子も課題をつかみ、学習に取り組むことができた。
- ティーム・ティーチングや少人数の体制で指導を行うことで、書くことが苦手な子どもにも、きめ細かく助言や指導を行うことができた。
- グループでの交流の際には、交流カードやホワイトボードを活用することで観点を明確にしながら話し合うことができた。また、全体交流の際には、子どもの考えを板書したり、大型テレビ等に投影して発表したりするなど可視化することで、友達の考えのよさや自分との違いを見つけることができた。

② 基礎・基本を身につけるための手立ての工夫について

- 教材文の音読や朗読、他の教材での群読等の指導により、子どもは表現することを楽しむようになった。
- 各学年の実態に応じて、日記や視写、漢字の反復練習等の指導を継続的に行うことで、基礎・基本を身につけることができた。
- 日記指導の際には、読み手を惹きつける題名や、会話文から始めることなど表現の工夫を指導することで書く力をつけることができた。書いた後に面白い表現を紹介することで、書く意欲をもたせることができた。

③ 読書活動の充実について

- 区の図書館との連携により、教材に関わる内容の本をまとめて借りて並行読書をしたり、調べ学習をしたりすることで読書の幅が広がった。
- 朝の読書タイムや読書カード・読書ノートの活用、地域の読書ボランティアの方々による本の読み聞かせなどを通して読書に親しむ子どもが増えた。
- 図書館ボランティアによる、週に4回の図書室開放により、子どもはいつでも読書を楽しむことができるようになった。

(2) 今後の課題

- ・ 今後も、子どもにつけたい力を明らかにし、教材の特質を活かす言語活動を設定した指導計画を研究し実践していく。
- ・ 子ども同士でより学び合えるように、ペアやグループでの話し合いや推敲の観点を明確にするなど、「交流の場」のあり方を工夫する。
- ・ 子どもの書いた文章を簡単に交流できるように、ICT機器の活用の仕方をさらに工夫する。
- ・ ティーム・ティーチングでの指導や少人数指導などを実施するにあたって、さらに高い効果を上げるための手立ての工夫や学習環境の整備を進めていく。
- ・ 国語科で習得したことを、他教科や生活の中でも活用できるように、継続した学習の場を設定する。